

Feathereum 白書

Feathereum を作った理由

Bitcoin が誕生してからすでに 10 年程が経過しました。地道に行われた仮想通貨を実現するプログラムの改善もあり、ここ数年で周辺サービスは比べ物にならないほど充実し、Bitcoin の欠点を解消すべく多くのコインが開発されました。「セカンドレイヤー」で行われるサービスまでもが登場し、仮想通貨関連のプロダクトの質、量は急激に改善し、非常に発展しました。

日本での「仮想通貨」の認知率は世界の中でも非常に高いと言われています。しかし世界を含め急激に上昇したその値段、相場が話題が先行し、技術的な内容は疎かに扱われていると感じています。新しく発表される通貨に対しては値段の話が殆どで、そのような投資家を対象とした詐欺も横行しました。コインの売買は、コア開発者を始めとして関連するサービスの開発者まで広い範囲の方が資金を得ることができる点からは非常に大切ですが、行き過ぎた相場への関心は仮想通貨自体の信用を落としかねません。

Feathereum は、特に日本で過小評価されているであろうスマートコントラクトの普及運動を行い、この流れに一石を投じます。そのため、開発資金の準備を成功させ、さらにはスマートコントラクトの提案を行った Ethereum をフォークしました。

Feathereum で実現したい事

- Ethereum の技術、主にスマートコントラクトの日本での認知度を高め、ブロックチェーンとコントラクトを使うことで置き換え可能になるものごとを認知していただく。
- 関心を持った方が開発者側に回れる様に、Ethereum とコントラクトの情報を集め、人材を育成する補助を行う。
- 開発者はコインに値段がつくことで開発資金を得ることができるメリットを利用して、十分に独立した資金で開発を行える。
- コアの開発者が干渉しすぎないようにインフラストラクチャ、サービスを育成する。
- 相場、プログラミングのみならず多彩な分野のメンバーを集め、健全なコミュニティを作る。

具体的な実現方法

インフラストラクチャの強化、周辺サービスの充実にはお金が不可欠です。また長期間維持できる資金力がなければインフラストラクチャを維持できず、その上に成り立つサービスを支えることはできません。これは非常に難しい問題ですが、まずは取引所に上場することが大切だと考えています。また、開発者の方が気軽に協力いただける様に援助制度を設け、特にインフラストラクチャを維持する協力者の方には長期的な援助を行います。援助制度の資金には限りがあるので、これに頼りすぎず開発者自身で資金を集める方法があれば提案します。

情報の収集と集約には Wiki を活用します。Wiki は Ethereum、Feathereum に関する事なら誰でも書き込みができます。Ethereum の基本からコントラクトまで幅広く取り扱うことを目標とします。執筆者に対する寄付を応募します。

エアドロップ等を通じて一般の方にもコミュニティに参加いただき、スマートコントラクト等の技術に触れていただきます。

まとめ

- 日本でスマートコントラクトの認知度を上げ、何ができるのか、更にはどうすればできるのかを認知していただく。技術者の育成の援助を行う。
- 協力者が独自の資金を持ってインフラストラクチャの運営、サービスの運営、アート作品の公開が行えることを目指す。
- 分散型でもあり中央集権型でもあるバランスの取れた運営を目指す。